

厚生福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2020
 ©誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

日瑞関係余話 その1

元・駐スウェーデン・渡邊芳樹
 特命全権大使



日本とスウェーデン(瑞典)は1868年11月、日瑞修好通商航海条約に署名し、批准後に正式な外交関係が始まった。73年4月、日本から初めての外交使節団(岩倉具視代表)が、この北辺の国を訪れた。筆者を含め知らなかった者も多からう。久米邦武の「特命全権大使米欧回覧実記」(岩波文庫)によれば、南部マルメから北上して4月24日、首都ストックホルムに到着した使節団は即日、外務大臣表敬を済ませ、翌25日朝に雪降る中で市内の博物館を視察。入り口にグリーンランドで採れた20トンもの巨大な隕石(後年、鉄鉱石と判明)が密閉されたガラス容器の中で海水に浸かる姿を見た。

この隕石は現在どこにあるのか。筆者は大使時代に、科学史に造詣の深いスヴァンテ・リンドクヴィスト王宮府長官を自宅に招き、調査をお願いした。後日、ストックホルム郊外の自然史博物館の庭に屋根もなく置かれている大きな石がそれであるとの報告を得た。2013年4月、長官と一緒に現地視察を企画し、挙行した。18年の外交関係150周年を記念してスウェーデン側が発行した「スウェーデン―日本 150年の友情と協力」(瑞日基金)にその時の写真が掲載されている。小さくてもこうした特段の経緯が、その後のわが国の皇室やノーベル財団を含めた両国関係のさらなる進展につながった。良き思い出である。

岩倉使節団は、王室や政府との交流にとどまらず産業視察も精力的にこなし、米国へ貧しい移民を多く出した時代、出遅れて産業革命を迎えていた同国の実情を鋭く観察している。例えば、優れた鉄鉱石はあるが良質な石炭を産出しないがための限界と貿易赤字、豊富な森林資源の活用、優れた操船技術と商船、伸び盛りのスウェーデンマッチ、農夫でも読み書きできる教育水準の高さ、スウェーデン人を「活発にして智功あり甚だ学芸を好み自強の力強し」と分析するなど多くの見聞を得ている。

今のストックホルム駅前にかつてあったクララ小学校も視察した。親の経済的負担は一切ない教育で、男女の生徒が机を並べて学ぶ姿を垣間見たことが印象深く特筆されている。わが国の義務教育・男女共学につながる歴史的記憶であろう。